

平成30年度 西毛地区小学校体育科授業研究会レポート

期日：平成30年11月27日

会場：下仁田町立下仁田小学校

単元名：ボール運動 ゴール型 「ハンドボール」

指導者：金井 亨平

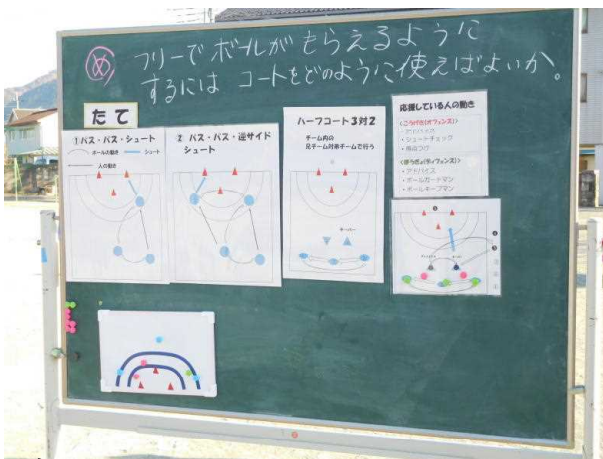
今年度の西毛地区授業研究会では、下仁田町立下仁田小学校の金井亨平教諭が授業提供をしてくださいました。今回、取り上げていただいたハンドボールの授業は体育授業の充実のために、群馬県教育委員会、群馬大学、群馬県小学校体育研究会並びに県下小学校が連携して作成したものです。体育授業プログラムによるハンドボールの授業を公開していただきました。



校庭に出てきた児童から、準備・準備運動を行い、パスやシュート練習をしました。（ドリルゲーム）



前時の動きを確認し、フリーでシュートをするためのめあてを決め、ハンドボール学習カードに記入しました。



既習事項の確認と縦の動きだけでなく、コートの横を広く使うことを確認しました。



チーム内で3対2のハーフコートゲームを行いました。（タスクゲーム）



シュートエリアでフリーな時は、シュートを打つように、教師の積極的な声かけが見られました。(タスクゲーム)



相手のチームに勝つためではなく、本時のめあてを達成するための作戦会議を短い時間で行います。(メインゲーム前)



自分のチームを積極的に応援したりアドバイスを送ったりしながら、得点係などを行います。(メインゲーム)



実行した作戦などを振り返りながら成果や課題を学習カードに記入し、数名の児童が発表しました。(振り返り)

授業研究会では群馬大学・鬼澤陽子先生による体育授業プログラムの意図や教材作りの視点、技術の習得、チームでの課題解決、教師の積極的な関わり等について説明していただきました。

協議では①楽しく学習を進めることにつながっていたか②自校でも活用できるプログラムか③新教育課程に対応しているかという視点で協議を行いました。

研修の最後に、群馬県教育委員会の山藤指導主事より、「子どもの困り感の見取り」「子どもへの声かけ」「授業の仕掛けの中で、話し合いが技術に裏付けされ、何のためにしているのかが子どもの中に落ちること」等が大切であることを指導していただきました。また、授業プログラムは運動が苦手な子を救うために考えられたものなので、学校や地区に広めていただきたいとのお話がありました。

この度の公開授業及び研究会は、よりよい体育授業の実践につながる貴重な経験となりました。授業を提供してくださった金井亨平先生、そして、会場を提供してくださった下仁田町立下仁田小学校の先生方、研究会開催にご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

(文責：甘楽町立新屋小学校 廣兼直幸)